

2 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

<基本計画の目標>

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民文化祭への 来場者数(+)	毎年、鎌倉市が主催する市民文化祭の年間来場者数	27,627 人	26,200 人	25,216 人	45,361 人	41,860 人	27,700 人	27,900 人
鎌倉芸術館・鎌倉清方記念美術館・鎌倉文学館・鎌倉国宝館の利用度(+)	4施設の年間利用者数の合計	686,854 人	764,150 人	764,452 人	843,509 人	831,522 人	688,000 人	688,000 人
市民文化度(+)	ここ1年間に、文化的イベントに参加したり、文化施設に行ったりしたことがある市民の割合	43.9 %	38.4 %	41.1 %	39.2 %	37.8 %	45 %	46 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	51.4 %	50.3 %	52.7 %	56 %	65.6 %	52 %	53 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・生涯学習推進担当

<昨年度からの課題>

- ・ イベント参加率が若い世代で低くなっている。企画運営までも若い人たちに任せられるような方策が考えられるといい。
- ・ 歴史的背景や芸術、文化にゆかりのある人材がありながら、鎌倉らしい文化の情報発信力が弱い。

<進捗>

- ・ 文化祭オープニングイベントで高校生によるコーラスを行ったことにより若い世代の参加が増加した。

<課題>

- ・ 市民満足度は増加しているものの、20年度をピークに文化祭来場者や施設利用者は減少し、文化活動に参加した市民の割合も減少していることから、現実には、市民が文化と触れ合う機会は減少していると考えられる。今後、特に若い世代が文化活動に参加したり鑑賞できる文化的環境を充実させる必要がある。

担当部の評価



・生涯学習部

<昨年度からの課題>

- ・ 高校生、大学生の文化活動を市民へ紹介して、交流を図る企画がもっとあるといい。
- ・ 今後とも市場化テストなどを通じた文化施設運営の効率化を図るべきである。

<進捗>

- ・ 鎌倉芸術館では若年層を対象としたキッズフェスタを引き続き企画した。鎌倉清方記念美術館・鎌倉文学館・国宝館では、夏休み期間に合わせ若年層向けのイベントを企画した。

<課題>

- ・ 文化施設の年間利用者総数は微減しているものの、目標値をはるかに超えて推移しており、市民満足度も増加していることから施設運営に関しては問題ないと考えている。しかし、各施設ともに建設から多年を経過しており、今後は大規模な施設・設備の修繕が想定される。

担当部の評価



<今後の展開(取組方針)>

・生涯学習推進担当

- ・市内の小中学校へ鎌倉ゆかりの芸術家や文化人を講師とした出前講話について検討する。
- ・若い世代が実施している鎌倉を拠点とした文化活動に対しての協力・支援方法等について検討する。
- ・新たな鎌倉文化の発信拠点となった川喜多映画記念館で集客力も有りかつ質の高い事業展開の推進を図る。
- ・鎌倉芸術館の次期指定管理者の選定を行う。

・生涯学習部

- ・施設・設備の修繕については、中長期的な計画を策定する中で、財政状況等も考慮しながら緊急性の高い部分から適切に行っていく。
- ・若年層向けの企画に関しては、引き続き若者が参加しやすい時期に合わせて実施していくとともに、より質の高い企画内容を目指す。
- ・鎌倉文学館は指定管理者の選定期を迎え、次期指定管理期間において、楠木清方記念美術館で既に実施しているモニタリング制度を導入することを検討する。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・市民文化祭への来場者数はここ数年急増していることから、このような市民が交流を通して鎌倉の文化を分かち合う場が必要であることが確認でき効果は認められる。
- ・若者を対象とする取組姿勢は評価できる。想像力のある若者を巻き込んだ取り組みを始め、若い世代への文化継承や活動への支援策の検討について評価する。
- ・次世代を担う若い世代の参加を促すための方策を多数検討・実施しながら、更なる問題点を発見し対処方法を検討する等、PDCAサイクルが行われている。新旧の文化のバランスを考慮し、更なる文化の発展に努力していただきたい。



課題・提言

- ・若者を対象とする取組姿勢は評価できるが、成果が伴っていない。若者が求めているものは何かをもっときめ細かく把握する必要があるのではないかと。また、若者と言っても幅が広く、どういう層を対象とすべきかも検討が必要である。
- ・文化という幅広いテーマでいったい何を鎌倉市は実現していくのかという点でイベントによる啓発がどうしても中心になってしまうが、鎌倉の有形・無形の文化財の実態やその保護といった文化を守るといった活動も今後は視野に入れる必要がある。
- ・イベントをきっかけとして若者が地域コミュニティとの関わりを持つようになることを期待する。若者に関したイベントにしない工夫をして、世代間交流を進め、異なった世代がお互いの価値観や、普段触れない芸術・文化に触れる機会が生まれることを期待する。